

# UA神奈川学習センター あきだより

2003/10/1 発行

第6巻第3号(通巻23号)

目次:

エッセイ	2
学生団体・サークルのお知らせ	3

放送大学神奈川学習センター  
〒232-0061 横浜市南区大岡2-31-1  
TEL: 045-710-1910  
FAX: 045-710-1914  
<http://u-air.net/kanagawa/>  
E-Mail: social@u-air.ac.jp



もみじ

[イラスト:坂戸五葉]

## エッセイ

## 雑 想

## 波多野 康男

9月に卒業予定です。学生番号「912-36・・・」が示すように、91年2学期に学生募集を始めた宮城ビデオ学習センターに選科履修生として入学しました。その時は選科と科目履修生のための募集でした。事務室とラジオ視聴室・ビデオ視聴室の3室のみの供用でした。建物は東北大学の片平町のキャンパスの一部、かつての理学部生物学教室の建物の再利用でした。仙台では放送はテレビ・ラジオとも受信できませんから授業はセンターで「定時視聴」しました。テレビは放送と同じ科目を、ラジオは放送と同じ科目の他に2科目が流され手元のセクターで聴きたい番組を選ぶ仕組みでした。1学期3科目を目標に受講することにしました。しかし、東北6県を担当して営業しているサラリーマンにとって3科目は大変でした。放送は何とかありましたが、半年以上先の予定など判るはずがありません。2回続けて試験を受けられなかった科目が幾つかありました。1・2年位してから図書室が

でき、定時視聴から自主視聴に変わりました。その後にはテープの館外貸し出しも始まりましたが、試験だけはうまく受けることができませんでした。4・5年前に全科履修生の受け入れが始まりセンターは広くなりました。講義室が幾つかと実習室・先生方の控室などができ2階も使用することとなりました。面接授業も始まりました。図書室・事務室も広くなりセンター長室・学生控え室もできました。学生生活の栞には記載されていませんが、100kmほど離れた市に分室も開設されました。そして01年2学期、サラリーマンを卒業し故郷に戻るのを機会に全科履修生(3年次編入)になり、所属センターを横浜に変えました。

実は私は学校大好き人間です。26歳で就職するまで学生でしたし、放送大学入学前は県立の通信制の高校の生徒でした。お客様で、若い工業高校卒業の社員の安全に対する知識・態度に疑問を感じ、高校ではどんなことを教えているのか知りたかったのです。そ

して引き続きその他の科目も聴講していたのです。

仙台にセンターができて、学生の集いといったと思いますが学生と先生(センター長お一人です)・事務室の方々(3人だったかな)と昼間ビールとおつまみを囲んで懇談会がありました。その折りに「学校に来るのは暇つぶしとしては大変安上がりである」と発言をして、センター長先生に「せめて余暇の善用くらいにはいいなさい」と窘められたりしました。そのあと、事務室長と二次会に行き「暇つぶしネー」と再度パンチを受けました。

計算が間違っていなければ放送大学で126単位を取得して卒業となりますが、余暇は入学当時より遙にふえていますので、再入学はまだ暫く学生を続けるつもりです。よろしく願いいたします。

(宮城学習センターについての記述には記憶違いがあるかもしれません。あしからず)

## 奄美群島復帰50周年を記念して

## 三輪 徳代

## エッセイ

私が高校卒業と同時に故郷である奄美大島を離れたのは今から20年以上も前のことです。現在、卒業研究のテーマとして近世の奄美を選び、レポート作成に奮闘する毎日を送っていますが、2003年12月25日に、奄美群島日本復帰50周年を迎えるため、そのことについてもぜひ紹介したいと思い、文章を書いてみることにしました。

終戦後、沖縄が米軍の支配下に置かれ、1972年(昭和47年)にようやく日本復帰を果たしたことは、ほとんどの人が知っていると思いますが、沖縄と同じく奄美を含む北緯30度以南の島々が日本から分離され、米軍の支配下にあったことはあまり知られていません。

1945年(昭和20年)の敗戦までの約70年間を鹿児島県政下で送った奄美群島は、1946年2月2日ブライス海

軍少尉の分離通告(いわゆる「二・二宣言」)に始まり、以後さまざまに名称を変えた軍政府の支配下におかれ、1952年(昭和27年)には奄美・沖縄の統一政府である琉球政府の奄美地方庁が発足しました。

その米軍政下で1951年(昭和26年)に奄美大島日本復帰協議会が生まれ、詩人であり、教育者でもあった泉芳朗を中心に22万島民と共に本土復帰運動を闘い抜いたのです。この運動の中で、小学校の校庭などで郡民大会が繰り返され、断食闘争も展開されましたが、多くの児童・生徒も自発的に参加しました。徹底した非暴力主義を貫いた泉芳朗は、「奄美復帰運動の父」「奄美のガンジー」と言われています。また、奄美の外から、つまり本土側からも多くの奄美出身者が、復帰運動を支えていました。これらの詳細について、間弘志『全記録 分離期・軍政下時代の奄美復帰運動、文化運動』

(南方社、2003年)に基礎資料としてまとめられていますので、興味のある方はぜひお読み下さい。卒業研究の資料集めのために、7月に久々に島に帰りましたが、名瀬市立奄美博物館には、復帰関係の資料も数多く展示しており、当時の復帰請願署名なども見ることができました。

奄美群島は、1953年(昭和28年)12月25日に本土復帰を果たし、鹿児島県大島支庁が復活しましたが、8年間に及ぶ奄美の復帰運動史は日本の戦後史、現代史から抜け落ちてしまっています。奄美出身の歌手、元ちとせさんの活躍で奄美の島唄にも少し関心が向けられていますが、この機会に美しい自然や歴史についても、目を向けてもらえたらと思っています。

最後に、世界の平和を願ってこの文章を終わりにしたいと思います。

## 学生団体・サークルのお知らせ

### うえるかむKanagawa

“うえるかむKanagawa”は神奈川学習センターの学生及び卒業生による英会話サークルです。

活動は月2回のネイティブの先生を迎えての学習と自主学習です。午前中はエリザベス先生による初級・中級にわかれて生きた英語を学んでいます。午後は自主学習で初級はラジオ基礎英語3やGATEWAYSをテキストに学習、中級は興味あるニュースやトピックについてフリートーキングなどを行っています。

海外ビジネスで実践英会話を身に

つけた方々もメンバーに楽しい話題が豊富です。

午前・午後のどちらか一方の参加でもかまいません、一度覗いてみてください。

例会 毎月 第2、第4水曜日  
AM 10:00 ~ 11:00 中級  
AM 11:00 ~ 12:00 初級  
PM 13:00 ~ 15:00 自主学習

“うえるかむKanagawa”の母体である“うえるかむ”の行事は休日しか参加できない会員と共に各支部合同

で親睦を深める活動をしています。春は花見、夏は納涼、そして今年は白馬へ行き美しい花畑を楽しんだり英語でのゲームも楽しいものでした。9月には英語の勉強会を行い、冬には天体の観測も楽しめる予定です。皆様もお仲間になりませんか。

サークルに参加ご希望の方は下記へお問い合わせください。

野末 : 044-287-0270

星 : 045-844-9647

(坂本 記)

### 神奈川放友会

2月15日(日) 2月旅にいこう会  
3月14日(日) 3月例会翌年度の計画、情報交換  
この他、清風亭ネットの会が随時イベントを企画しています。

照会/入会申込先

〒251-0025

藤沢市鶴沼石上1-13-13-506

芝崎 芳和

Tel/Fax 0466-25-0090

E-Mail shibasun@gray.plala.or.jp

神奈川放友会のホームページ

<http://www.h5.dion.ne.jp/~jinhoyu>

10月入学の皆さん入学おめでとう御座います。

神奈川放友会は神奈川学習センター所属の学生団体で、会員相互の親睦を図り、学習を援助する下記のサークル活動を行っています。

行楽と研修を兼ねた旅行

一泊研修旅行

(大学本部・博物館等)

旅にいこう会(行楽・名所旧跡等)

学習履歴表に依る情報交換

会員相互の研究発表

HP運営とパソコン初心者講習

ネット上で会話を楽しむ清風亭ネットの会

学生生活をより一層充実させ交流の輪を広げたい方の入会をお待ちしています。

行事予定(10月~3月)  
10月5日(日) 入学者の集い  
入会勧誘/歓迎会

10月25~26日 研修旅行  
(国立歴史博物館 大学本部(泊) 葛西臨海公園 水上バス 日の出棧橋)

11月16日(日) 11月月例会  
(情報交換・研究発表)

12月 7日(日) 忘年会、情報交換

1月11日(日) 1月例会、情報交換、  
新年賀詞交換会

### 人間学研究会

【例会】

10月19日(日)

「キノコについて」

11月16日(日)

(会員発表・詳細未定)

12月 6日(土)

(講演会・詳細未定)

1月11日(日)

(内容未定)

また、2月に、公開講演会を企画しています。例会は、毎回午後1時から講義室にて行います。卒業研究の発表、ワークショップ等

の内容です。入会前には、見学ができます。2月以降も、毎月例会を行います。

例会についてのお問い合わせは、  
Tel: 045-302-1121 松本まで。

【歩きましょう】

10月12日(日)

「開国の地・浦賀を歩く」

11月1~3日

「日本スリーデーマーチ」

(埼玉県東松山市)

12月13日(土)

「忘年会ハイキング」

12月23日(祝)

「汽笛一声ウオーキング」

(新橋~桜木町)

1月 1日(祝)

「元旦ウオーキング」

1月中旬

「鎌倉初詣ハイキング」

2月以降も、ハイキングや登山、歴史散歩を計画中です。歩きましょうについてのお問い合わせは、

Tel: 046-841-7937 大出 まで。

## 拡大かながわレク・サークル

8月24日に行われた恒例のフェスタ・ヨコハマでパフォーマンスを披露しました。

フェスタ・ヨコハマに参加できなかった方々も沢山おられたと思いますので、レク・サークルの紹介などを含めて、当日の様様をお話させていただきます。

レク・サークル活動種目の一つとして、レクリエーションダンスの練習があるのですが、日ごろの練習の成果を見てもらおうと、当日は恥ずかしさを棚上げして、「大きな古時計（zuzuバージョン）、チリチャチャ、よさこいソーランロック」の3曲を披露しました。続いて「皆で踊ろうコーナー」では、皆さんの参加を得て鉄腕アトム曲で「アトムの体操」を踊りました。午後1時、気温34度の真夏の炎天下で、スポーティなダンスを踊るのですから、顔から汗が滝のように吹き出て、さぞかし女性の方々に

としては大変だったのではないかと、内輪ながら同情した次第です。

上記3曲の出しものは、単位認定試験後に特訓したものですから、フェスタ参加の皆さんから見ても練習不足が感じられたのではないかと、踊り終わってから再び、今度は冷や汗が滝のように吹き出て、短時間に2回もダイエットを体験した感じでした。皆さんもダイエットしにレク・サークルにお入りになりませんか。「体育実技」の単位もとれますよ。

ダンスを終えて休む間もなく、今度はもう一つ「作ってあそぼう」コーナーを設けて、「牛乳パックとストロー」を利用した「紙とんぼ」作り、それと「広告のちらし」を利用した「蝶々づくり」や「輪投げの輪づくりと輪投げ」などを行いました。フェスタ参加の皆さんにはお子様連れの方もたくさんおられ、こちらは大人気となりました。参加賞はメンバーの中の一人が手作りして仕上げたものが好評を呼びました。ちなみに参加賞は「梟のキーホルダー、ピエロ、アイスマン、シャボン玉」などなどです。また、輪投げでは豪華景品（新聞販売店からの贈答品流用）とあって、大人も子供も真剣なまなざしで挑戦しておりました。そして豪華景品は「鹿島さ

ん、明田さん、大島さん」のお三方がGETしました。

既製品による遊び方に馴らされている現代人にとって、手作りによる遊び道具が意外と新鮮に感じられたのではないかと自画自賛しております。

レク・サークルのフェスタの様子はこれくらいにして、最後はサークル活動について紹介させていただきます。

1. 通常活動種目： 練習日：毎月第1～第4水曜日 AM10時から12時ターゲット・バードゴルフ（大岡原っぱ）、PM1時から3時レクダンス・フォークダンス（センター内）
2. 校外活動種目（随時）ターゲット・バードゴルフ、シティウォーク、ウォークラリー他
3. 連絡先（入会等の）  
代表者：中嶋 博子

Tel / Fax 0467-83-8203

（文：佐々木恭夫）

## 放送大学同窓会

ペリー来航150周年ということで6月に浦賀を散策し、ペリー公園・ペリー記念館を見学してきました。第2弾で10月に衣笠ハイキング、第3弾で11月に同窓生による総括としての勉強会を開催します。来年2月には毎回好評を得ている映画鑑賞会も開催します。今回の作品は感動の一大叙事詩です。同窓生はもちろんのこと学生のみならずも気軽にご参加ください。

### 1. 衣笠ハイキング

日時：10月26日（日）  
集合場所：京浜急行横須賀中央駅東口

集合時間：12時40分

コース：満昌寺、清雲寺を訪れます。5キロ程度歩きますので歩きやすい靴と飲み物をご用意ください。（小雨決行）

### 2. 勉強会

日時：11月16日（日）  
場所：神奈川学習センター第1講義室予定  
時間：14時～16時  
演題：1部「ペリー来航と開国前後の日本」2部「横須賀周辺の史跡巡り」  
講師：藤井輝氏（放大同窓生）

### 3. 映画鑑賞会

日時：2月22日（日）  
場所：神奈川学習センター第8講義室予定  
時間：13時～16時10分  
作品：「生きる」カンヌ国際映画審査員特別受賞監督チャン・イーモウ1994年中国映画  
講師：横浜映画研究会会員

西浦久晏氏（放大同窓生）

お問い合わせは

佐々木順子（045-472-6482）

大花 幸子（0468-66-2195）

まで

## UA神奈川学習センター あきだより編集部

発行者：神代和俊  
編集者：五十嵐、遠藤、星、加藤、松本、皆川、吉田、村山、石川、坂井

・神奈川学習センターだより発行も、6年が過ぎ、いよいよ7年目に入ります。投稿者の方々と、読者の支援に感謝いたします。来年には、7周年記念号を出したいと考えております。

ホームページもご覧ください。  
<http://u-air.net/kanagawa/>

次回、神奈川学習センター「ふゆ」だよりの特集テーマは、「ボランティア・NPO活動」についてです。参加しての感想など学生の方々の原稿を募集いたします。1200字程度にまとめて12月上旬までに、E-Mailで、あるいはセンター窓口までお寄せください。また、「書評」「読後感想文」も400字程度で受け付けます。奮ってご応募ください。常時「放送大学」と「神奈川学習センター」について原稿も受け付けております。